仕事と育児を生かしあう
（うまエッセイ 24）

しばらく子育ての話が続きましたが、今回は出産後の馬の学校の活動について書きたいと思います。産休明けは、実家に娘を預けてできるプログラムから活動再開しました。我が家は夫の休みが土日でなかったこともあり、次第に娘を連れてプログラムを行うようになりました。初挑戦は、小須田牧場でのプログラム。といっても私一人ではできるわけもなく、ボランティアでずっとかかわってくれていたUさんが同行してくれて、あれこれ支えてくださいました。娘は楽しく参加していましたが、トイレ～、目がかゆい～、のど渇いた～などピンチのときは、参加者の方にもお世話になりながら、何とかプログラムを行うことができていました。

2015年に岐阜県のカズホーストレーニングでナチュラルホースマンシップの講習会があり、初めて参加しました。関心を持っていたものの、実際の場面を見たり、体験したりしたのは初めてで、とても興味深かったです。馬の側に立ってコミュニケーションを取ることや、一貫性を持ってかかわることなど、子育てにも通じることがたくさんあると感じました。またその時のご縁から、六甲山牧場、愛知牧場、ぐりん・はあと、愛知県森林公園と連携してプログラムを行うようになりました。他の施設と連携してプログラムを行うことのメリット・デメリットはいろいろとありますが、何よりもまず連携先を探すことが難しいです。同じような想いを持っていて、でも同じようなプログラムはやっていないという、矛盾したことをクリアしないといけないからです。でもここで大切なのは、人とのつながり。カズさんの紹介ということ、そしてホースマンシップに関心を持っているということでスムーズな連携につながり、プログラムも広がっていきました。娘を連れてのプログラムは大変なことも多々ありましたが年齢が上がってくると見本になったり、お友だちも参加してくれて娘も楽しめるようになり、娘の成長には欠かせない機会にもなってきました。このような経験から、仕事と育児を分けて考えるのではなく、それぞれを生かしあうことができる生き方を目指すようになりました。

オススメの本

『動物の見ている世界』

作：ギヨーム・デュプラ　訳：渡辺 滋人　　創元社

哺乳類や鳥類、爬虫類、昆虫など、いろいろな動物が、どのように世界を見ているかがわかる仕掛け絵本図鑑です。同じ風景が、動物によって見え方がどう変わるか、動物の目の部分をめくると見えるようになっています。視野の広さや色の見え方、視力などが視覚的にわかりやすい絵本です。馬の学校のコンテナハウスにも置いてあり、子どもたちに大人気です。

ボクたちは
こんな風に
見えているよ

編集後記

この冬は、3月に3回も雪が積もりましたが、全体としては比較的過ごしやすい冬でした。アキオの引き馬デビューを目指して、冬の間にコツコツと調教をしていました。ミルキーフレンズの子どもたちに乗ってもらうだけでは足りず、私も乗ることに。重くてごめんねーと思いつつも、かつて小須田牧場でポニーの担当をしていた時のことを懐かしく思い出していました。ちょっと気が強く、まだまだ子どもっぽいアキオを前に、ああでもない、こうでもないと試行錯誤の時間が、結構楽しかったりもします。

娘は、卒業式での歌のピアノ伴奏をやりたいとYouTubeを先生にして猛練習。見事にオーディションを勝ち抜き、無事に終えることができました。エッセイに書いていた頃は常にムスメモンダイがありましたが、今やプログラムに欠かせない存在。大変だけど大切な時間になっているのだよと、当時の自分に伝えてあげたいです。さて、これから娘の世界も広がり、どんな中学校生活になるのか、親子でドキドキわくわくです。（峯﨑 友香理）

「わたしの大切な風景　優七」

発行　馬の学校 Milky Way
〒408-0002　山梨県北杜市高根町村山北割 3107 八ヶ岳南麓 URAYAMA
TEL/FAX：0551-30-4397　E-mail：umanogakkou@yahoo.ne.jp
ホームページ：http://www.horseschool.org
第一種動物取扱業（展示）登録番号：第 2241008 号　動物取扱責任者：中井（峯﨑）友香理

2025 春
Vol.97

馬の学校
Milky way
通信